

女医は華麗に舞う

アステリアかさいで小児科「さかいこどもクリニック」院長と病児・病後児保育室「ひまわり」の施設長として、地域の子どものための医療に携わる酒井圭子さん。診療後には社交ダンスの教師として幅広い世代の生徒にダンスを指導しています。夢に向かって邁進する酒井先生にお話を伺いました。

「サカイダンスアカデミー」。酒井先生が経営している社交ダンス教室です。

「スロー・クイック・クイック・スロー」と、教室に入ると明るい声でダンスカウントが聞こえてきました。我々の姿を確認すると、レッスンを中断させ汗を拭いながら「こんにちは〜」と出迎えてくれました。どんな人たちが通っているのか聞く前に、「小学生から88歳まで幅広い年齢層の生徒が通っているんで



診療中の酒井先生。優しい笑顔で泣いていた子どももおとなしく受けてくれます

「と笑顔で教えてくれました。」「何から話しましょうか」そう言ってもずは、医師になったきっかけを話しはじめました。

28歳で医学部へ

最初は大学で薬学を学び、卒業後は、県内の製薬会社で2年半、新薬の開発をしていたといいます。「大学病院の先生と話すことが多くて、薬の開発より現場で直接患者さんの反応を見られる仕事の方がいいなと思ったんです」。そんな時、新聞で枚方市の小児科クリニックが病児保育を創設したという記事を見つけました。働くお母さんのために、自分もこういう仕事がしたいと思い、医学部を再受験。小児科医を目指し、滋賀医科大学に入学しました。28歳の時でした。

医学生時代に2回の出産を経験します。旦那さんとは仕事の関係で一緒に過ごせるのは年に数カ月だけといい、子育ては通学しながらひとりでしました。実習の期間は、遅くなるので、加西に住む両親に子どもを預けて学業に専念したそうです。

ダンスのプロへ

もう一つの顔がダンス教師です。小さいころから興味があり、大学のクラブ活動で社交ダンスに魅せられます。「これなら今からでもできそう」と思い、始めました。また、どうせやるなら良い成績を取りたいと、クラブ活動以外にも、ダンススタジオでほぼ毎日練習を受けるほど熱中。社会人になってからも続けていると、先生から「プロの資格をとったら？」と思わぬ提案をされました。

将来子どもたちにダンスを教えてみたいという夢もあったので資格取得に挑戦。見事、平成14年に取得しました。ダンス教師として、当時の勤務先である加西病院や一般向けのサークルでレッスンをするように。周囲の

「熱が出た時とか、医者だったらこのくらい大丈夫とわかるけど、当時は素人だったのですごく不安でした。その時期に子育てをしたのでお母さんの気持ちがよくわかるんですよね」。この時の経験が活かされ、今ではお母さんたちに寄り添った診療ができること微笑みながら話します。

夢の保育施設を

大学卒業後、神戸大学医学部付属病院の小児科医としてのキャリアをスタートさせ、平成16年に加西病院の小児科医として、加西市へ戻ってきました。「これまで周りに支えられて仕事をしてきたので、40歳を機に恩返しできれば」と、平成18年に「さかいこどもクリニック」を開院しました。

数年が経過し徐々に落ち着いてきたころ、加西市が子育て支援の一環として病児・病後児保育を創設する計画を耳にします。長年の思いを叶える絶好の機会に手を挙げ、クリニックの奥に病児・病後児保育室ひまわりを開設することになりました。

子どもが病気などで保育所・学校に通えない時や、保護者が自宅で看護できない時に、お子さんを一時的に預かるのが病児・病後児保育です。

両親からは今でも「病児保育をしてくれるところがあれば、孫を見る時に預けられたの」と言われるんです」と笑います。

「何かあったときに、頼れる場所があることで、お母さんたちの心を軽くできるような存在でありたい」と話してくれました。



発表会のときはいつも心を込めて踊るという

感謝と夢の続き

子どもたちに関わる様々な地域の活動にも参加しています。そのひとつが、こども狂言塾の応援隊です。設立当初、練習場所にダンス教室を提供した縁でサポートを続けています。「初演の加西市播磨国風土記1300年

健診や予防接種などで大きくなった子どもたちに出会ったときに、小児科医になって本当に良かったと思えるそうです。市内の小学校やこども園の校・園医も7校担当しており、「時間が合えば入学式・卒業式にも参加します」と、子どもたちの成長の過程を見ることがうれしいと話します。

また、新型コロナウイルス感染症にも触れ、「感染者が加西市も増えています。今の段階では有効な治療薬がないので、5歳以上の方はなるべく早くワクチンを受けてください」と呼びかけました。

祭が神がかりすぎて。それで一気にはまりましたね」。続けて「子どもたちが、衣装を着て舞台ではつらつとした姿を見たときは感動しました」と回顧しました。

回を重ねるごとに応援隊も減ってきているといい「文化の継承をしていくために、この事業はすごく大事」と酒井さん。そして、「将来は海外で公演をして日本の文化を伝えられたらいいですね」と話します。

自身の活動も加西への感謝から。今後は、市民の健康を守るために、講習会や子育てがしやすく住みやすいまちのアピールを手伝っていきたくと話してくれました。

地域全体の子供を見守る先生の夢は大きい。これからはますます活躍の幅が広がっていきそうです。

すっぴん かさい 広報 9月

表紙	01
キラリびと 酒井圭子	02
女性議会を開会	04
市政情報	08
TOPICS	
ねっぴ〜pay運用開始	08
窓口キャッシュレス開始	09
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	18
わくわく子育て情報	25
そうだ!図書館へ行こう	26
おくやみ/各種相談	27
とびだせ!かさいっ子	28
加西から広めよう世界の輪 みんなで使おう加西弁	

特集

KASAI データバンク

R4.7.31 現在 (前月比)

人口 / 42,482 人 (-50)

男 / 20,820 人 (-31) 女 / 21,662 人 (-19)

世帯数 / 18,349 (-17)

7月の出生数 / 21 人 死亡数 / 58 人

● 9/14、28 は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)

キラリびと vol.17

酒井圭子 Keiko Sakai

昭和39年生まれ。加西市出身。広島大学・大学院で薬学を学び、製薬会社に勤務。さらに滋賀医科大学医学科へ進学し医師に。小児科医として公立病院で7年間勤務したのち、平成18年さかいこどもクリニックを開院。サカイダンスアカデミーの経営もしている。

魅力は子の成長